

問1 3世紀前半の倭（日本）において、邪馬台国の女王である卑弥呼が中国の魏に使いを送った背景と、その結果として得られたものについて説明した文として最も適切なものはどれですか。（2015年 岐阜公立入試 類似）

1. 中国の魏の皇帝から「親魏倭王」の称号や多数の銅鏡などを授かることで、自らの権威を国内に示し、統治を安定させようとした。
2. 中国の唐から律令制度を導入するために遣唐使を派遣し、天皇を中心とした中央集権国家の仕組みを整えようとした。
3. 後漢の皇帝から金印を授かることで、九州北部を中心とした小国の連合を強固なものとし、大陸との交易を独占しようとした。
4. 仏教などの新しい文化や技術を取り入れるため、百済を通じて大陸との国交を樹立し、高度な官僚組織を構築しようとした。

問2 弥生時代の人々が、収穫した米を保存する建物の床を地面から高く設計した理由として、当時の工夫を説明したものとして最も適切なものはどれですか。（2018年 山形県公立入試 類似）

1. 風通しを良くして湿気を防ぐとともに、ねずみなどの害獣が侵入するのを防ぐため
2. 床下を家畜の飼育スペースとして利用し、限られた土地を有効に活用するため
3. 洪水が発生した際に建物全体が水に浮くようにし、米が濡れるのを防ぐため
4. 敵に米を奪われないよう、床下に深い穴を掘って隠し場所を作るため

問3 7世紀初め、推古天皇の摂政であった聖徳太子は、小野妹子を遣唐使として中国の隋へ派遣しました。その際、中国の皇帝に宛てた手紙の中で「日出づるところの天子、書を日没するところの天子に致す…」という有名な一節を記しました。この外交姿勢の背景にある、従来の中国との関係からの変化について、正しい説明を選びなさい。（2024年 宮崎公立入試 類似）

1. 中国の皇帝に対して臣下として従う従来の形式をとりつつも、対等な立場での外交を目指そうとした。
2. 中国の皇帝からの称号を拒否し、完全に国交を断絶して鎖国体制を築こうとした。
3. 日本の天皇を中国の皇帝よりも上位に位置づけ、中国を日本の属国にしようとした。
4. 中国の皇帝に対して朝貢を一切行わず、民間商人による自由貿易のみを求めようになった。

問4 弥生時代から江戸時代までの外交上の主なできごとを整理した記録において、3世紀に邪馬台国の女王である卑弥呼が中国の魏に使いを送り、皇帝から「親魏倭王」の称号を授かった目的や背景を説明したものとして、最も適切なものはどれですか。（2017年 富山県公立入試 類似）

1. 中国の強力な王朝との外交関係を築き、その権威を背景に国内の統治を安定させ、周辺諸国との関係を有利に進めるため。
2. 先進的な仏教文化や律令制度を日本に導入し、天皇を中心とした中央集権国家の基盤を早急に固めるため。
3. 「漢委奴国王」と刻まれた金印を授かることで、北九州の奴国を中心とした小国の連合体を統一し、女王の地位を証明するため。
4. 朝鮮半島南部での鉄資源の確保を目的として、中国の王朝と軍事同盟を結び、高句麗や百済に対抗するため。

問5 鳥取県の青谷上寺地遺跡などの出土品をまとめた資料では、木製品や骨角器とともに、石器、金属器、そしてこの時代の特徴的な土器が並んで示されています。これらの道具が併用されていた弥生時代の土器に見られる、縄文土器と比較した際の外見上の特徴として、最も適切なものはどれか。（2016年 鳥取公立入試 類似）

1. 表面に細目の文様がつけられ、全体的に薄手で実用である
2. 表面に縄目のような力強い文様がつけられ、全体的に厚手である
3. 青灰色をしており、非常に硬く焼かれた朝鮮半島由来の技術で作られている
4. 仏教の儀式に用いるために、表面に金色の装飾や仏像が描かれている

問6 弥生時代の食生活の変化をまとめた資料では、この時期に稲作が広まったことが記されています。これと同じ時代、1世紀の日本の様子について述べた、中国の歴史書『後漢書』東夷伝の内容として正しいものを選びなさい。（2022年 広島公立入試 類似）

1. 倭の奴国の王が後漢に使いを送り、光武帝から金印を授けられた。
2. 卑弥呼が魏の皇帝に使いを送り、「親魏倭王」の称号と金印を授けられた。
3. 倭の五王が中国の南朝に使者を送り、朝鮮半島での軍事的地位を認めさせた。
4. 推古天皇の使者として小野妹子が隋に渡り、対等な外交を求めた。

問7 弥生時代の国際関係についてまとめた学習表において、1世紀に「奴国の王」が後漢の光武帝から授けられたとされる「金印」が、実際に見つかった場所として正しいものはどれですか。（2015年 佐賀公立入試 類似）

1. 福岡県の志賀島
2. 佐賀県の吉野ヶ里遺跡
3. 奈良県の纏向遺跡
4. 大阪府の大仙陵古墳

## 答え合わせ・解説

問1	<b>答え 1</b> 中国の魏の皇帝から「親魏倭王」の称号や多数の銅鏡などを授かることで、自らの権威を国内に示し、統治を安定させようとした。	当時の日本には文字による自国の記録がなかったため、中国の歴史書である『魏志倭人伝』が貴重な史料となります。卑弥呼は中国の三国時代における「魏」へ朝貢し、皇帝から認められることで、国内における政治的・宗教的な権威を高める狙いがありました。授けられた「親魏倭王」という称号や、当時の宝物であった銅鏡は、その権威を裏付ける象徴となりました。
問2	<b>答え 1</b> 風通しを良くして湿気を防ぐとともに、ねずみなどの害獣が侵入するのを防ぐため	収穫した米は湿気に弱く、カビが生えやすいため、床を高くして風通しを確保する工夫がなされました。また、柱の上の部分に「ねずみ返し」と呼ばれる板を取り付けるなど、食料を害獣から守るための構造的な特徴を持っています。
問3	<b>答え 1</b> 中国の皇帝に対して臣下として従う従来の形式をとりつつも、対等な立場での外交を目指そうとした。	それまでの朝貢外交は、中国の皇帝を上位、周辺諸国の君主を下位とする主従関係が前提でした。しかし、聖徳太子が送った手紙は、日本の君主も中国と同じ「天子」という称号を用いることで、形式上の臣下という立場から脱却し、より対等に近い国際関係を築こうとする意図が含まれていました。これに対し、隋の煬帝は不快感を示しましたが、当時の朝鮮半島の情勢などもあり、日本との関係を維持しました。
問4	<b>答え 1</b> 中国の強力な王朝との外交関係を築き、その権威を背景に国内の統治を安定させ、周辺諸国との関係を有利に進めるため。	当時の倭（日本）では多くの小国が争っていましたが、卑弥呼は邪馬台国を中心とする連合体をまとめるため、中国の「魏」という大国の威光を利用しました。中国の皇帝から正式に「王」としての称号を授かることは、国内における支配の正当性を高める強力な武器となりました。1世紀の「漢委奴国王」の金印（後漢へ派遣）や、後の時代の仏教伝来、朝鮮半島への出兵とは時代や背景が異なる点を見極める必要があります。
問5	<b>答え 1</b> 表面に細目の文様がつけられ、全体的に薄手で実用的である	弥生土器は、装飾が豊かだった縄文土器と比較して、表面に細目の文様が施されるなどデザインが簡素化され、調理や貯蔵に適した薄くて機能的な形状へと変化しました。青谷上寺地遺跡のように、金属器や木製品など多様な道具が登場した背景には、稲作を中心とした計画的な生産活動への移行があります。
問6	<b>答え 1</b> 倭の奴国の王が後漢に使いを送り、光武帝から金印を授けられた。	紀元1世紀、現在の福岡県付近にあったとされる「奴国」の王は、後漢の光武帝に使者を送りました。その事実は、江戸時代に志賀島（福岡県）で「漢委奴国王」と刻まれた金印が発見されたことによって裏付けられています。3世紀の卑弥呼（魏志倭人伝）、5世紀の倭の五王（宋書）、7世紀の遣隋使（隋書）など、中国のどの王朝の時代に、誰がどのような目的で交渉したかを区別することが重要です。
問7	<b>答え 1</b> 福岡県の志賀島	1世紀の57年、倭の奴国が中国の後漢へ使者を送り、光武帝から金印を授かったことが中国の歴史書『後漢書』東夷伝に記されています。この金印は、江戸時代に現在の福岡市にある志賀島で農作業中に偶然発見されました。印面には「漢委奴国王」と刻まれています。